



# ポスト・パンデミック 移民立国カナダの選択

コロナ禍で各国の移民受け入れが減少するなか、カナダは積極的な受け入れ姿勢を見せる。経済発展を移民が担うという国民的コンセンサスは、精巧な受け入れプログラムにより醸成されている。先進国の課題、人口減少と低成長を解決できるか。

駐カナダ特命全権大使  
**川村泰久**

かわむら やすひさ 一九八一年一橋大学卒、外務省入省。外務副報道官、在ニューヨーク総領事館首席領事、在インド大使館次席公使、外務報道官、国際連合代表部特命全権大使などを経て、二〇一九年より現職。

二〇二一年一〇月二六日、内閣改造の宣誓式後に記者会見するトルドー首相 Photo by Adam Scotti (PMO)

ワクチン接種が進んだ先進諸国はコロナ禍後の経済回復を急ぐが、移民労働力に対しては、新たな変異株に対する警戒感が高まっていることもあって、ほぼ一貫して慎重である。その中であってカナダはいち早く二〇二〇年、移民受け入れの拡大を発表し、他国との違いを印象づけた。折しも、二一年八月に連邦下院が解散し、九月の総選挙に向けてコロナ禍の完全収束と経済再開が最大のキャンペーン

ン・イシューとなった中で、移民問題に対するカナダ国内の受け止め方が注目された。

## 党派を超えた積極的な移民受け入れ姿勢

カナダでは戦後四〇年間、人口の１％程度、主に経済成長を維持するために約三〇万人の移民を受け入れる方針を続けてきた。二〇二〇年一〇月、移民大臣はパンデミック

下での移民受け入れ数が二四万人に落ち込んでいたことを考慮に入れて、昨年は約四〇・一万人への増加を目標とすることを発表した。これは一九一三年の四〇万八〇〇人を抜いて、カナダ史上最多の移民受け入れ数である。同大臣は二〇二二年および二三年の受け入れ目標数をおのおの四二万人および四二万人へとさらに増加させていくことを明らかにした。

また、四〇・一万人の移民受け入れ目標に資するものとして、高等教育卒業者や医療・その他エッセンシャルな分野での従業者の計九万人に永住権を付与するとした。さらに二一年に永住権を得た移民のうち三万人に、抽選で当たれば両親・祖父母を出身国から呼び寄せることができるという特典まで用意した。パンデミック下において、先進諸国で経済的移民の数は低く落ち込んでおり、経済再開に向けて移民受け入れ増を表明しているところは、ほとんどない。その意味でカナダの積極的な政策表明は他国に先行している。

二一年九月下旬に行われたカナダの連邦下院総選挙は、事実上与党トルドー政権のコロナ対策への信任投票と見なされていた。結果は選挙前の各党議席数にほとんど変化はなく、政権は信任を得た形となった。

より注目すべきは、ポスト・パンデミックにあつて、高いレベルの移民を受け入れるべきだとの強いコンセンサスが存在していたことであつた。実のところ二〇年の大統領選挙に向けて隣国米国の主要な争点が移民政策をめぐつてのものであつたことから、このような米国の政治思想・主義が隣国カナダに及ぼす影響も懸念されていたところであつた。しかるに、与党自由党のみならず、野党保守党の政策綱領には移民労働力受け入れの強化さえ謳われていた。保守党の綱領では、カナダはその優れた移民制度によつてリーマンショックから見事に復活し、中産階級の成長が世界の羨望の眼差しを受け、他国で見られるような移民をめぐる政治対立はなく、貿易は一〇倍に拡大しているが、これは保守党の優れた移民政策の成果だとしている。

二一年の選挙キャンペーン期間中に看取された各政党間の主張の違いとえば、移民受け入れ体制の強化や行政手続きの合理化といった技術的な側面に限られており、最も保守的とされる人民党も必要最小限の経済移民の受け入れを訴えていた。パンデミック下の選挙において、カナダでは移民は主要な選挙イシューにすらならず、他国のように移民をめぐる国が分断するようなこともなかつたのである。

## 労働力人口の減少を移民で補う

カナダが高いレベルの移民を必要とするという考え方はどこから来ているのか。それは建国以来移民を受け入れてきた歴史から、移民に対する違和感がないことがその基礎にある。加えて移民を受け入れなければ人口減・高齢化は避けられず、国が衰退するという危機感が国民に広く共有されているからであろう。カナダの出生率は一九五九年には三・九〇であったのが二〇一九年には一・四七と日本とほぼ同水準まで低下、現在も漸減傾向にある。カナダの政策諮問委員会は、これまでの人口の1%レベルの移民受け入れを続けていくことにより、四〇年には人口が四五〇〇万人に増え、それに伴ってGDPも成長、三〇年にはロシアを抜いて世界第一〇位の経済力を得ることになると試算している。そしてこのような人口増加は、出生率の増加ではなく、移民人口の増加によってその八割がもたらされると考えている。逆に言えば出生率低下がもたらす労働力人口の減少を移民で補わない限り、カナダの豊かな生活水準は維持できなくなると考えられているのである。

しかし、このような状況はカナダに限らずこの先進国でも同様である。カナダの特色は、きわめて現実的な移民

受け入れプログラムにある。有名なものが一九六七年に導入された「ポイント制度」であり、経済移民希望者の能力、すなわち言語、学歴、スキル、可能な就業分野、などを点数化して合計点が高い者から入国を認めるという合理的な制度である。その他にもカナダに投資を行う「ビジネス移民」、留学生や家事介護者に永住権を与える制度も設けられている。筆者も、このポイント制度に基づいて合格して前年にモロッコからカナダに移住してきたばかりの青年に会ったことがある。彼は日本の自動車のディーラーでセールスパークソンに採用され、店長の右腕として大活躍していた。彼はまさにカナダ経済の即戦力であり、カナダの移民システムがこのような成果を上げているのを目の当たりにして、率直に言って驚いた。

カナダ経済評議会会長のゴルデイ・ハイダー氏は、「カナダに来る移民労働力は教育水準とスキルのレベルが非常に高く、カナダ経済にとって不可欠の存在」と言い切る。パンデミック下の一年半、毎日テレビに登場してワクチンやコロナウイルスについて平易な言葉で解説をする大学教授・専門家の大半がアジアからの移民と思われる人々であることも、これら専門技術を有した移民あるいはその子孫がカナダの保健衛生を支える貴重な人材に育っていること

を如実に物語っている。まさにカナディアン・ドリームの実現である。

さらにスポーツ分野ではあるが、二一年のUSオープン女子テニスにおいて一九歳で準優勝したカナダのフェルナンデス選手はエクアドル出身の父とフィリピン系の母の下に生まれた。試合後のテレビインタビューで父親は「娘にこのように素晴らしい人生を与えてくれたカナダに感謝する」と述べた。カナダに移民してきた国民の多くがこの父親の発言に共感した。

### さらに洗練される移民制度

経済協力開発機構（OECD）の二〇一九年報告書によるとカナダは加盟国の中で最も包括的な技術系移民システムを有しており、長期にわたって安定的に移民を受け入れることができるという意味で他国の模範であると高く評価されている。また移民が自国の経済ニーズに的確に对应しているという実感をカナダ国民の多くが共有して制度の存続を強く支持していることも、このシステムが長期にわたって維持されている理由である。

またカナダの最近の移民プログラムは、野菜や果実などの農園への労働力供給という伝統的な形から最先端の成長

産業を支える高度人材を獲得する手段を提供するまでに進化を遂げている。例えば、それまで試験的に行ってきた「スタートアップ・ビザ」が一八年以降、制度として定着し、スタートアップのためのイノベーションを進める外国企業の中でカナダのビジネス・インキュベーターやベンチャー資本の推薦を得られた技術者がカナダに移民するよう誘導を行うこととなった。一八年にはこの計画の下で過去最高の二五〇社による外国人技術者のこのビザ申請が認められた。今やカナダでは、イノベーションの担い手のスタートアップに移民技術者が欠かせない存在となっているのである。

もちろん、課題もある。大都市中心に流入してくる毎年数十万人の移民の住宅確保が、パンデミック後の物価急上昇の影響もあって一層難しくなっている。また、経済再開に伴って労働需要が一気に高まっているにもかかわらず、移民認定手続きが進まず、いわゆるバックログが深刻化しているという指摘もある。一部アジア系住民に対するオンラインを含めたヘイトクライムも起きている。能力が高く、カナダの経済に貢献できる経済移民歓迎のコンセンサスは依然堅固であるが、家族や難民などのカテゴリーの移民については、政党間で意見の違いが見られる。●